

科目名	臨床薬理栄養学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	花田 輝代・片岡 彩子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、リハビリテーション栄養に関する基礎知識と実践方法について理解することを目的とする。また、疾患別の対処法の違いなどを学ぶことで臨床で実践できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを知る。	
	○	○				汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				栄養についての基礎知識や5大栄養素の役割について学ぶ。	
	○	○				各病態における栄養の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				代表的疾患を通して薬理学、栄養学の知識を応用できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 POSのためのリハビリテーション栄養 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	薬理学総論			教科書にて復習する。		
	2	(薬理学の役割と目的、薬物の体内動態および薬理作用、副作用など)			教科書にて復習する。		
	3	薬の作用に影響する因子			教科書にて復習する。		
	4	感染・炎症の制御と薬物療法			教科書にて復習する。		
	5	神経疾患の薬物療法			教科書にて復習する。		
	6	精神疾患の薬物療法			教科書にて復習する。		
	7	循環器系疾患の薬物療法			教科書にて復習する。		
	8	血栓症の薬物療法			教科書にて復習する。		
	9	栄養の基礎:5大栄養素の役割			教科書にて復習する。		
	10	栄養の基礎:運動時の栄養、栄養不良時の栄養			教科書にて復習する。		
	11	栄養のスクリーニング、評価、マネジメントについて			教科書にて復習する。		
	12	主な病態の栄養療法:低栄養者、フレイル、サルコペニア、メタボリックシンドローム			教科書にて復習する。		
	13	主な疾患の栄養療法:中枢神経疾患			教科書にて復習する。		
	14	主な疾患の栄養療法:整形外科疾患			教科書にて復習する。		
15	主な疾患の栄養療法:呼吸・循環器疾患、がん			教科書にて復習する。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床薬理栄養学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	花田 輝代・片岡 彩子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、リハビリテーション栄養に関する基礎知識と実践方法について理解することを目的とする。また、疾患別の対処法の違いなどを学ぶことで臨床で実践できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを知る。	
	○	○				汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				栄養についての基礎知識や5大栄養素の役割について学ぶ。	
	○	○				各病態における栄養の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				代表的疾患を通して薬理学、栄養学の知識を応用できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	薬理学総論			教科書にて復習する。		
	2	(薬理学の役割と目的、薬物の体内動態および薬理作用、副作用など)			教科書にて復習する。		
	3	薬の作用に影響する因子			教科書にて復習する。		
	4	感染・炎症の制御と薬物療法			教科書にて復習する。		
	5	神経疾患の薬物療法			教科書にて復習する。		
	6	精神疾患の薬物療法			教科書にて復習する。		
	7	循環器系疾患の薬物療法			教科書にて復習する。		
	8	血栓症の薬物療法			教科書にて復習する。		
	9	栄養の基礎:5大栄養素の役割			教科書にて復習する。		
	10	栄養の基礎:運動時の栄養、栄養不良時の栄養			教科書にて復習する。		
	11	栄養のスクリーニング、評価、マネジメントについて			教科書にて復習する。		
	12	主な病態の栄養療法:低栄養者、フレイル、サルコペニア、メタボリックシンドローム			教科書にて復習する。		
	13	主な疾患の栄養療法:中枢神経疾患			教科書にて復習する。		
	14	主な疾患の栄養療法:整形外科疾患			教科書にて復習する。		
	15	主な疾患の栄養療法:呼吸・循環器疾患、がん			教科書にて復習する。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	整形外科学						
科目名(英)	Orthopedic Surgery						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	整形外科の基礎知識、各種治療法、整形外科疾患について理解する。整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解し、臨床実習で必要な知識を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				整形外科疾患に関する基礎知識について説明できる。	
	○	○				整形外科における各疾患の成り立ちや臨床像を説明できる。	
	○	○				整形外科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				リハビリテーションにおいてセラピストが関わる整形外科疾患の治療実践を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	整形外科概論 (整形外科とは、運動器の評価及び検査法、治療法)				テキストを用いた復習	
	2	骨折 1 (上肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習	
	3	骨折 2 (体幹・下肢の骨折:受傷機転、病態、治療)				テキストを用いた復習	
	4	脊髄損傷				テキストを用いた復習	
	5	関節における外傷性疾患 (捻挫(TFCC)、脱臼(肩・肘・股関節など))				テキストを用いた復習	
	6	末梢神経における外傷性疾患 1 (外傷性疾患各論)				テキストを用いた復習	
	7	末梢神経における外傷性疾患 2 (絞扼性神経障害・その他)				テキストを用いた復習	
	8	腱・靭帯における外傷性疾患(筋・腱・靭帯の概論、腱板断裂、手の腱損傷)				テキストを用いた復習	
	9	スポーツ障害(スポーツ障害の概論、急性・慢性のスポーツ外傷)				テキストを用いた復習	
	10	熱傷、切断と離断(熱傷の病態、治療、切断・離断の原因、部位、義肢、その他)				テキストを用いた復習	
	11	先天性骨・関節疾患(代表的な疾患とその特徴)				テキストを用いた復習	
	12	循環障害と壊死性疾患(骨壊死、骨端症など)				テキストを用いた復習	
	13	骨・軟部腫瘍				テキストを用いた復習	
	14	神経・筋疾患(脳性麻痺、神経麻痺)				テキストを用いた復習	
	15	脊椎の疾患(脊柱の変形、奇形、椎間板ヘルニア)				テキストを用いた復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	レポート						
	発表						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	内科学						
科目名(英)	Internal medicine						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	平田 秀紀		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患を理解することで、リスク管理が出来るようになる。	
	○	○				理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。	
	○	○				理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。	
	○	○				内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来る。	
	○	○				内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第2章 診断と治療、第3章 症候学			教科書で範囲の予習をしておく。		
	2	第4章 循環器疾患 総論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	3	第4章 循環器疾患 各論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	4	第5章 呼吸器疾患 総論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	5	第5章 呼吸器疾患 各論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	6	第6章 消化管疾患 総論・各論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	7	第6章 消化管疾患 各論、第7章 肝胆膵疾患 総論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	8	第7章 肝胆膵疾患 各論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	9	第11章 腎・泌尿器疾患 総論			教科書で範囲の予習をしておく。		
	10	第11章 腎・泌尿器疾患 各論、付録 救命救急の知識			教科書で範囲の予習をしておく。		
	11	第9章 代謝性疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
	12	第10章 内分泌疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
	13	第8章 血液・造血器疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
	14	第12章 アレルギー疾患・膠原病・免疫不全症			教科書で範囲の予習をしておく。		
	15	第13章 感染症			教科書で範囲の予習をしておく。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurological Medicine I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳Ⅸ神経(前編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	脳Ⅸ神経(後編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	感覚			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	失調症の検査と診断			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	嚥下機能、気管切開、胃ろう			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①(1回~6回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ①(7回~12回)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	Pediatric science						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	平田 由起		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				新生児・未熟児の疾患について説明できる	
	○	○				先天異常と遺伝病について説明できる	
	○	○				小児期の神経系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の筋・骨格系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の循環器・呼吸器・消化器疾患について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 小児科学概論1				教科書で範囲の予習をしておく。	
	2	第1章 小児科学概論2				教科書で範囲の予習をしておく。	
	3	第3章 新生児・未熟児疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	4	第4章 先天異常と遺伝病				教科書で範囲の予習をしておく。	
	5	第5章 神経・筋・骨系疾患1				教科書で範囲の予習をしておく。	
	6	第5章 神経・筋・骨系疾患2				教科書で範囲の予習をしておく。	
	7	第5章 神経・筋・骨系疾患3				教科書で範囲の予習をしておく。	
	8	第6章 循環器疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	9	第7章 呼吸器疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	10	第9章 消化器疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	11	第13章 腎・泌尿器系・生殖器疾患、14章 腫瘍性疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	12	第10章 内分泌・代謝疾患				教科書で範囲の予習をしておく。	
	13	第11章 血液、第8章 感染症				教科書で範囲の予習をしておく。	
	14	第12章 免疫・アレルギー疾患、膠原病				教科書で範囲の予習をしておく。	
15	第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待、 第16章 重症心身障害児、第17章 眼科・耳鼻科的疾患				教科書で範囲の予習をしておく。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	臨床運動学							
科目名(英)	Clinical Kinematics							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	木村孝・花田穂積・松崎哲治・園田剛之			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として施設に従事			
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年							
授業概要	1. 運動学で学んだ基礎知識をもとに、正常な運動・姿勢・動作を理解する。 2. 疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析し、問題点を理解する。 3. 身体運動の生理学側面、特に運動器に重点を置きながら学習することにより、理学療法に必要な運動生理学の基礎的知識を理解する。							
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○		○		運動学で学んだ基礎知識をもとに、正常な運動・姿勢・動作を理解する。		
	○	○		○		疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析し、問題点を理解する。		
		○	○			身体運動の仕組みについて説明できる。		
		○	○			運動とエネルギーについて説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	やさしい運動生理学 杉晴夫 編 南江堂							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム				教科書の予習をしておく。		
	2	筋の収縮様式と筋力				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	筋線維のタイプとその特徴、運動ニューロン、運動単位、神経支配比・他				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	神経系による運動の調節；末梢神経と身体運動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	神経系による運動の調節；中枢神経系と身体運動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	国家試験対策 演習問題①				授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	動作に影響を及ぼす要因①：関節運動・体性感覚 動作に影響を及ぼす要因②：動作における関節角度の計測・感覚の影響				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	動作に影響を及ぼす要因③：姿勢制御 動作に影響を及ぼす要因④：姿勢、動作を制御する要因				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	歩行分析演習①：歩行周期の概念、立脚相・遊脚相・歩行様式 歩行分析演習②：股・膝・足関節の角度変化、1歩行周期における筋活動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	歩行分析演習③：正常歩行観察・記録・歩行周期の細分化 歩行分析演習④：パッセンジャー・ロコモーター・床反力				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	疾患別異常歩行分析演習①：頸髄損傷患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習②：脳卒中片麻痺患者の歩行分析				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	疾患別異常歩行分析演習③：膝OA患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習④：脊髄小脳変性症患者の歩行分析				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	疾患別異常歩行分析演習⑤：パーキンソン病患者の歩行分析 疾患別異常歩行分析演習⑥：股OA患者の歩行分析				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	疾患別異常歩行分析演習まとめ 国家試験対策				授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ				授業資料のまとめを復習しておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを7~8回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	○				80%	
	小テスト	○	○		○		20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	評価学Ⅲ						
科目名(英)	Evaluation Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松木 直人・松崎 哲治		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて理学療法業務での患者評価など		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1. 運動機能検査の神経学的な理論を説明できる。 2. 運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。 3. 理学療法評価の統合と解釈を理解することができる。						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動機能検査の神経学的な理論を説明できる	
	○	○	○			運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。	
	○	○				疾患別の評価の特徴を理解し、まとめることができる	
		○				理学療法評価の統合と解釈をとらえることができる	
			○			安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	1) 潮見泰臈、下田信明:リハビリテーション基礎評価学第1版. 羊土社, 2014. 2) 田崎義明、斉藤佳雄:ベッドサイドの神経の診かた. 南山堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 評価学演習総論			教科書の予習をしておく。		
	2	脳血管障害総論① : 脳血管障害の種類 脳血管障害総論② : 脳血管障害の臨床所見			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	片麻痺運動機能検査① : 中枢性運動麻痺とは? 片麻痺運動機能検査② : Brunnstrom Recovery Stage			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	筋緊張検査① : 異常筋緊張とは? 筋緊張検査② : 検査法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	反射検査① : 表在反射、深部反射、病的反射とは? 反射検査② : 検査法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	感覚、疼痛検査① : 感覚障害とは? 感覚の伝導路 感覚、疼痛検査② : 検査法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	中間テスト			これまでの復習テスト		
	8	バランス機能、姿勢反射① : バランス機能とは? バランス機能、姿勢反射② : 姿勢反射の検査法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	脳神経検査① : 12脳神経の種類 脳神経検査② : 検査法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	高次脳機能検査① : 失行、失認、失語の臨床所見 高次脳機能検査② : 検査法			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	測定結果の統合と解釈① : 症例 初期情報 測定結果の統合と解釈② : 症例 仮説			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	測定結果の統合と解釈③ : 症例 問題点、Goal設定、プログラム立案 測定結果の統合と解釈④ : 症例 まとめ			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	国家試験対策 演習問題①			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	実技総復習① 実技総復習②			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	総まとめ			今までの総復習をしておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○	◎			80%
	小テスト				○		20%
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	運動療法学Ⅱ						
科目名(英)	Therapeutic exerciseⅡ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山下 慶三・田中 知子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	理学療法士としての治療的側面で中心となる運動療法の実践について、筋力増強運動やその他の運動療法の理論的根拠を学び、最新の方法を含め紹介していく。運動を通しての理学療法の効果も含め実技多く取り入れ実践的な授業を行っていく。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				筋力に関する知識を深め、筋力発揮の特性について説明できる。	
	○	○	○	○		代表的な筋力増強運動を学生間で実施できる。	
	○	○		○		筋力低下の要因について理解し説明できる。	
	○	○				神経筋再教育・運動学習理論を理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)市橋則明 編:運動療法学 第2版 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	筋力に関する基礎知識① 筋力とは(Strengthとpower)・興奮収縮連関・相対筋力と絶対筋力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	2	筋力に関する基礎知識② 筋力発揮に影響する因子				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	3	筋力に関する基礎知識③:筋力発揮の特徴 代表的な筋肉に対する運動療法(股関節周囲)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	4	筋力低下と筋力増強のメカニズム① 筋力低下の要素・筋力のトレーニングの効果				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	5	筋力増強の原則(過負荷の原則、特異性の原則)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	6	筋力低下と筋力増強のメカニズム③筋力増強運動の至適刺激 代表的な筋肉に対する運動療法(膝関節周囲)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	7	筋力増強運動の実際: MMTレベルに応じた増強肢位 代表的な筋肉に対する運動療法(足関節周囲・体幹筋)				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	8	中間テスト				配布プリント・教科書で復習しておくこと。	
	9	筋力低下の捉え方① MMTの結果からの要因分析				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	10	筋力低下の捉え方② MMTの結果からの要因分析				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	11	神経筋再教育①:総論・目的・促通手技の紹介				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	12	神経筋再教育②:促通手技の紹介および臨床応用				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	13	運動学習:総論・練習方法の種類と特性				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
	14	ウィメンズヘルス領域の紹介				配布プリントを復習し確認しておくこと。	
15	まとめ・実技試験				これまでの講義内容を復習し、理解しておくこと。 実技内容を学生間で練習し実技試験に臨むこと。		
評価方法	(1)実技試験を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○	◎			60%
	定期試験(実技)	◎	◎		○		20%
	中間テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	物理療法学Ⅱ						
科目名(英)	Physical AgentsⅡ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	仲吉功治・熊丸真理		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	物理療法の定義や分類を学習し、理学療法における物理療法の位置づけを理解する。また物理療法で適応の多い炎症や疼痛それらに対する物理療法の考え方を学ぶ。各物理療法の特性・生理学的作用を学び、適切な使用方法を学び、実践する。その上で症例を基に適切な物理療法の選択が行えるよう臨床推論を行っていく。						
授業形式	講義：○	演習：	実習：	実技：△	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法における物理療法の位置づけを理解し説明できる。	
	○	○				物理療法の適応の多い病態について理解し説明ができる。	
	○	○				各物理療法の種類・定義・目的を説明することができる。	
	○	○				各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	吉田秀樹 編：Cross link理学療法学テキスト 物理療法学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・復習(物理療法学Ⅰ)			シラバス、期末試験範囲の確認		
	2	物理療法総論：物理療法に必要な生理学 主な病態の理解：疼痛・組織修復			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	光線療法：赤外線、紫外線、レーザー 特性・実施方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	牽引療法(概要・実施方法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	電気療法(電気特性)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	電気療法(機器特性・設定方法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	電気療法(実施方法・実技)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	中間テスト			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	9	国家試験問題①			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	10	国家試験問題②(グループワーク)			前回国家試験問題を解いておくこと		
	11	国家試験問題③(解説)			国家試験問題を復習しておくこと		
	12	症例検討①			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	13	客観的臨床技能練習①			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	14	客観的臨床技能練習②			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
15	まとめ			これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと			
評価方法	(1)中間テスト(筆記)を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	中間テスト	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	日常生活活動学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	峰岡 哲哉・木村 孝		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1. 日常生活におけるセルフケアの役割について理解する 2. 日常生活を支援する機器について理解する 3. 疾患別日常生活の障害について理解する 4. 日常生活活動訓練について理解する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		日常生活におけるセルフケアの役割について学び、意義を説明することができる	
	○	○		○		日常生活の活動別に福祉用具と自助具を整理し、ADL動作に関係づけることができる	
	○	○		○		各疾患による障害がADLに与える影響について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	メジカルビュー社: Crosslink 理学療法テキスト 日常生活活動学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	日常生活の中でのセルフケアの役割			教科書の予習をしておく。		
	2	施設見学			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	施設見学			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	ADL支援機器について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	セルフケア動作の理解			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	補装具について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	基本動作の支援について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	疾患別ADL(脳卒中)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	疾患別ADL(脳卒中)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	疾患別ADL(パーキンソン)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	疾患別ADL(パーキンソン)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	疾患別ADL(リウマチ)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	疾患別ADL(人工股関節置換術後)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	疾患別ADL 自助具 作成・導入			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	15	疾患別ADL国家試験問題(グループ学習)			今までの総復習をしておく。		
評価方法	(1)レポート、小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート 発表	○	○		○		10%
履修上の注意	施設見学については状況によっては内容・日程の変更があります。						

科目名	義肢装具学						
科目名(英)	Prosthetics and orthotics science						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	遠藤 正英		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1.リハビリテーションにおける義肢装具の重要性と役割について理解する。 2.義肢装具の種類・目的・構造について理解する。 3.装具の疾患に対する適応・活用方法を理解する。 4.義肢装具の作製過程を学び多職種との協力について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		リハビリテーションにおける義肢・装具の目的と役割について説明できる。	
	○	○		○		装具の種類とその目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
	○	○		○		疾患別に必要な装具を目的とその方法について説明できる。	
	○	○		○		義肢の種類と目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
	○	○		○		義肢装具の作製過程を学び多職種との協力について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	神陵文庫出版 理学療法テキストVI 義肢装具学 第2版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	義肢装具総論 義肢装具の支給体系			教科書の予習をしておく。		
	2	義肢装具の製作と材料 義肢装具におけるバイオメカニクス			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	3	義肢 切断者のリハビリテーション 切断者の動向			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	4	適合とアライメント			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	5	上肢切断の理学療法に必要な知識			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	6	下肢切断の理学療法			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	7	装具 装具の定義・目的・固定の原則			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	8	装具の種類と構造(上肢装具、下肢装具、体幹装具)			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	9	脳卒中片麻痺の装具 脳卒中片麻痺患者の特徴			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	10	脊髄損傷の装具			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	11	骨・関節疾患の装具			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	12	脳性麻痺の装具			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	13	側弯症の体幹装具			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	14	靴型装具の基本構造と種類			教科書の予習をしておく。 授業資料を復習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	内部障害 I						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	奥野将太、今山隆士、花田穂積		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	1. 呼吸の解剖と換気・ガス交換について説明ができる。 2. 代表的な呼吸器疾患の発生機序と病態が説明できる。 3. 呼吸機能の評価、治療の実際を理解する。 4. リスク管理ができる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:	△	
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において呼吸器疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				呼吸器理学療法の実施過程を説明することができる。	
	○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法 呼吸 第2版」石川朗+玉木彰 編 配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床に必要なCOPDの知識 9章、13章-4				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	2	慢性呼吸不全とCOPD 13章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	3	フィジカルアセスメント・実技試験① 2章 5章				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	4	解剖・生理と医療面接 2章 5章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	5	排痰の考え方・呼吸介助手技・実技試験② 8章				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	6	コンディショニング 7章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	7	実技再試験①②・臨床に必要な呼吸生理学 1章 3章-6				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	8	呼吸生理学と運動療法 3章 10章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	9	論文の読み方、調べ方・肺炎の理学療法				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	10	呼吸不全の病態 4章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	11	エキスパートに学ぶ実臨床の評価とその意義 6章				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	12	酸素療法と呼吸理学療法 11章				指定範囲の教科書の予習・復習	
	13	初回に提示した症例についてまとめてみよう				授業の質問の投稿と授業中にやり残した課題 今回の課題の復習	
	14	吸引 15章				指定範囲の教科書の予習・復習	
15	人工呼吸器の理学療法は何が違うか? 12章				人工呼吸器関連の国家試験問題に全て正解		
評価方法	奇数回の授業の成績は、各授業内で行っている課題を全て回答すれば、C評定です。実技テストへの合格でB評定、良質な質問の実施によってA判定とします。質問の判定方法は授業内で提示します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		授業内課題	◎	◎			40%
		実技試験		○			10%
		質問の実施		○	○		20%
	基礎テスト		◎			30%	
履修上の注意	奇数回の授業は全てGoogle classroomで実施します。定期テストは一切行いません。欠席した場合は、Google classroom上で個人で課題の遂行を全て行って下さい。課題は1単元180分間で設定しています。						

科目名	生活環境学						
科目名(英)	Living Environment						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	千原 麻衣子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	超高齢社会の中で、地域で安全に暮らしていく為に、住環境は一つの重要な要因となっている。高齢者や障害者の基本的な疾患別特徴を踏まえた生活環境に対する整備の視点を基本的な用語、考え方、提案方法について紹介する。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高齢者・障害者を取り巻く環境について、また制度(介護保険)について説明できる。	
	○	○				住環境を整備する為の基本的知識を利用して基本的な住環境整備ができる。	
	○	○		○		理学療法士の視点から環境整備が実践でき、その提案が可視化できる。	
テキスト・教材 参考図書	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			特になし		
	2	高齢者を取り巻く社会状況と住環境、障害者を取り巻く社会状況と住環境			テキストの該当部分を読んでおきましょう		
	3	リハビリテーションと自立支援、高齢者・障害者の心身の特性			テキストの該当部分を読んでおきましょう		
	4	住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方、相談援助の実践的な進め方			テキストの該当部分を読んでおきましょう		
	5	住環境整備の共通基本技術			テキストの該当部分を読んでおきましょう		
	6	生活行為別福祉住環境整備の手法			テキストの該当部分を読んでおきましょう		
	7	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識			テキストの該当部分を読んでおきましょう		
	8	図面の作図			基本的な用語の確認をしましょう		
	9	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備			基本的な疾患について確認をしましょう		
	10	障害別にみた福祉住環境整備			基本的な障害について確認をしましょう		
	11	在宅生活における福祉用具の活用			テキストの該当部分を読んでおきましょう		
	12	症例提示(グループワーク)			グループで内容の共有・確認をしましょう		
	13	症例提示(グループワーク)			該当疾患や環境について熟考し、まとめましょう		
	14	症例発表			他者に伝わるような表現でプランを発表、ディスカッションをしましょう		
15	症例発表、総まとめ			他者に伝わるような表現でプランを発表、ディスカッションをしましょう			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	○	◎		○		30%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	福祉住環境コーディネーター検定試験の受験を勧めます。						

科目名	生活環境学						
科目名(英)	Living Environment						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	千原 麻衣子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 2年						
授業概要	超高齢社会の中で、地域で安全に暮らしていく為に、住環境は一つの重要な要因となっている。基本的な疾患別の特徴を踏まえた生活環境に対する整備の視点を基本的な用語、考え方、提案方法について紹介する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高齢者・障害者を取り巻く環境について、また制度(介護保険)について説明できる。	
	○	○				住環境を整備する為の基本的知識を利用して基本的な住環境整備ができる。	
	○	○		○		理学療法士の視点から環境整備が実践でき、その提案が可視化できる。	
テキスト・教材 参考図書	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				特になし	
	2	高齢者を取り巻く社会状況と住環境、障害者を取り巻く社会状況と住環境				テキストの該当部分を読んでおきましょう	
	3	リハビリテーションと自立支援、高齢者・障害者の心身の特性				テキストの該当部分を読んでおきましょう	
	4	住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方、相談援助の実践的な進め方				テキストの該当部分を読んでおきましょう	
	5	住環境整備の共通基本技術				テキストの該当部分を読んでおきましょう	
	6	生活行為別福祉住環境整備の手法				テキストの該当部分を読んでおきましょう	
	7	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識				テキストの該当部分を読んでおきましょう	
	8	図面の作図				基本的な用語の確認をしましょう	
	9	症例提示(グループワーク)				基本的な疾患について確認をしましょう	
	10	症例発表				該当疾患や環境について熟考しましょう	
	11	在宅生活における福祉用具の活用				テキストの該当部分を読んでおきましょう	
	12	症例提示(グループワーク)				グループで内容の共有・確認をしましょう	
	13	症例発表				該当疾患や環境について熟考しましょう	
	14	症例発表、事例紹介				該当疾患や環境について熟考しましょう	
15	国家試験問題グループ学習				今までの総復習をしておく		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	○	◎		○		30%
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意	福祉住環境コーディネーター検定試験の受験を勧めます。						